

# 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 **建設事務事業**

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連  
 有  
 無

## 1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	大根若王子線整備事業(主要事業)							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	街路用地係	評価票作成者	街路・用地担当係長 小川泰則
1-3 総合計画における施策の体系	節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			基本施策	道路	コード	3 1 1
	項	道路・交通			単位施策(中)	幹線道路の整備	コード	3 1 1 1
					単位施策(小)	災害に強い幹線道路整備の推進	コード	3 1 1 1 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	都市計画道路大根若王子線(L=460m) 1		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	都市災害時における、緊急輸送道路として活用できる災害に強い幹線道路の整備。			
1-5 事務事業の内容	この区間の用地買収及び道路改良工事を行なう。 用地買収は、全面積約5,800㎡の内、買収や土地改良等で約40%強にあたる約2,400㎡が取得済。今後も継続して用地買収を行い、引き続いて道路改良工事を行なう。 道路改良工事は、通常断面は幅員16mで両側に3.5mの歩道、その内側に1.5mの路肩、車道3.0mの2車線を築造する。榎山の現県道の分岐交差点及び上記の鶴根爛坂交差点の改良工事も含む。							

## 2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	平成18年度	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み この区間の概算事業費の算出等により、より実現に向けてアピールできるよう心がけた。	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握 市財政の逼迫により、時間をかけて行わざるをえないが、毎年少しずつでも進めて行きたい。	市民ニーズの認識 この路線の北側に中京競馬場の駐車場があり、開催時には近隣の道路が混雑しており、早期開通が待たれる。
	平成19年度	〃	〃	〃
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名	前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	都市計画道路整備率(%)	83.0(%)	84.0(%)	目標設定理由:都市計画道路将来整備計画及び南部・北部地域の土地利用計画に基づき目標値を設定 指標の定義:名古屋都市計画決定された市内都市計画道路(市施工)の整備率を表す指標 算出式:名古屋都市計画決定された都市計画道路全延長(市施工)と整備済都市計画道路延長との比率 現状値算出の資料:都市計画道路現況表

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(m)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	0	0								
	人件費 c(千円)	670	668								
	合計コスト d(b+c)(千円)	670	668								
	単位コスト d/a(千円)	1m当たり957	1m当たり835	1m当たり							

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → [条件] a(m)=年度概算延長、b(千円)=年度別事業費、成果指標(%)=[(a+前年までの累計延長)+整備済延長]/都市計画道路総延長  
 H18実績 成果指標=[(0+120.1m)+19,077m]/23,240m=82.60% 人件費=6,702(千円)×0.1=670(千円)  
 H19実績 成果指標=[(0+120.1m)+19,077m]/23,240m=82.60% 人件費=6,673(千円)×0.1=668(千円)

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績 (%)	82.6 (%)	82.60 (%)								
	後期目標値に対する達成度 (%)	98.3 (%)	98.3 (%)								

### 3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A								

4段階評価結果  
 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する  
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要  
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要  
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準  
 必要性(必要な事務事業であるか)  
 公共性(公が実施する意味があるか)  
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)  
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)  
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)  
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度		この区間は、整備後県道に昇格する可能性もあるためこれの見極めと、競馬場環境整備事業の動向を見守りたい。	この区間の全体事業計画の策定により、より理解を得やすい内容の計画をつくる。	今年度は、用地取得済・未買収用地の推計を行い、全体事業費の概算を行ったが、他事業との並存が難しい状況であることを認識するに留まった。
平成19年度		〃	市財政の逼迫により、先行きの不透明感があり、全体計画自体の改善が必要。	昨年同様他路線の全体計画と比較検討したが、進展はなかった。
平成20年度				
平成21年度				
平成22年度				
平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

### 4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度		A	継続して事業を進めること。
平成19年度		A	継続して事業を進めること。
平成20年度			
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			